

ご意見	担当課からの返答
<p>意見募集の期間について町報配布で多くの町民が知り、3月5日までは短いのではないかと。 説明会の広報を何故町報に載せなかったのか。防災無線だけでは知らない人が多い。 炭化・電気熔融施設は理想的なことを言って作られた。同じ失敗をしないように時間をかけて説明をしないといけない。この説明会で説明しましたとなるのか、説明会の事をもっと周知してほしい。</p>	<p>意見募集は、防災無線及び町ホームページで先にお知らせし、町報へ掲載しました。説明会は開催する計画で進めていましたが、新型コロナウイルスの状況により、日程の決定が難しく、そのため町報へ掲載は出来ず、防災無線及び町ホームページでの広報となりました。ごみ処理施設の情報につきましては、今後も町報等でお知らせしていきます。</p>
<p>プラント排水は、無放流式となっているが、それはどういったものなのか。</p>	<p>プラント排水については、プラント内で循環利用し、排出しないことであります。</p>
<p>ストーカ式には縦型と横型があり、維持管理費の比較はどうか。</p>	<p>今回の計画でストーカ式を採用するとしており、今後発注仕様書作成の中で各プラントメーカーの提案を受けていくこととなります。</p>
<p>豆炭をどうしていくのか。</p>	<p>豆炭は今後処理をしていきます。</p>
<p>施設の改良なのか、建て替えなのか。</p>	<p>ストーカ式焼却施設に建て替えをするものであります。</p>
<p>ごみは炭化していたが、燃やすということか。</p>	<p>はい。焼却することにより、焼却灰が出てきます。この焼却灰は最終処分場に埋め立てると共に島外でリサイクルを行うことを検討し、最終処分場の延命化を図っていきたくと考えています。</p>
<p>旧焼却場はどうしていくのか。</p>	<p>解体について検討を行っています。</p>
<p>整備検討委員会が種子島と始良に視察に行ったが、何故そこを見に行ったのか。</p>	<p>ストーカ式焼却施設で縦型と横型の施設があり視察に行きました。</p>
<p>焼却施設にはストーカ式の他にどんな方式の物があるのか。</p>	<p>流動床式と言うものがあります。ストーカ式と流動床式を比較した結果、本施設規模での採用実績が多い、ストーカ式を採用しています。</p>
<p>施設の耐用年数は。 施設の耐用年数は何年か。また、何年使える施設を考えているのか。</p>	<p>施設の耐用年数は、大体15年程です。他自治体の様子を見ると稼働開始後15年～20年ごろに大規模改修を行い、施設の延命化を図り、トータル30年稼働を目指しているところもあります。</p>
<p>ダイオキシン発生を抑えるためには高温で燃焼しないとダメと思うが、採用する方式は高温での燃焼は可能か。</p>	<p>国の基準に則って作られる一般的な施設であり、採用実績の多い方式なので、問題ないと考えています。</p>
<p>炭化物や焼却灰は島外に出すのか。生ごみは分別が大変で、ごみ袋代もかかり、造られた堆肥は売れ残っている。いままでどおり続けていくのか。燃やす考えはないのか。町民負担の軽減を言うのであれば、堆肥化の経費を減らしてほしい。</p>	<p>分別は、現在の17分別を基本としつつ、費用対効果を考慮しながら検討していきます。生ごみは、施設の建設費の軽減、燃料費などの運営費の軽減を図るため、現在の分別を維持し、たい肥化をすることとしています。</p>
<p>事業費は幾らなのか。施設を造ることでごみ袋代の引き下げなど町民の負担軽減になるのか。種子島のごみ袋代金の情報は把握しているのか。建設に向けて情報は全て公開してほしい。</p>	<p>事業費については、来年度仕様書を作成し、プラントメーカーから見積りをもらう予定としています。情報は町報等でお知らせします。</p>

<p>今後 SDGsの考えが浸透し、ごみのない世界が来るのではないかと考えるが、そのような考えに基づいた取り組みとなっているか。</p>	<p>ごみの減量化・リサイクルに取り組んでまいりますが、災害で発生するごみや衛生上処理が必要なごみはあるので、焼却施設は必要であると考えます。</p>
<p>ごみの減量化についての具体的な取り組みを教えてください。</p>	<p>町の取り組みとしては、現在の分別を徹底して取り組んで行くことで、ごみ減量化に繋がると考えています。</p>
<p>ごみの分別について、プラスチックと紙は炭化・電気溶融施設の延命化のために取り組んだことであり、焼却施設が出来れば、燃えるごみとして良いのではないかと。また、炭化物は焼却炉で燃やすことは出来ないのか。</p>	<p>ごみの分別については、今の分別を基本としつつ、費用対効果を考慮しながら検討していきます。また、プラスチックについては国の動向を注視していきます。炭化物は、ストーカの火格子の間からこぼれてしまう可能性があり、施設への影響が懸念されるので、島外での処理を提案しました。</p>